中小企業景況調査報告書
(福井県商工会地域)

令 和 ５ 年１０月～１２月実　績

令 和 ６ 年 １ 月～ ３ 月見通し

福井県商工会連合会

Ⅰ．景況調査の概要

１．調査目的　　この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。

２．調査方法　　経営指導員による訪問面接調査

３．対象地区　　あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計１１商工会

４．対象企業数　　１６５企業（１商工会１５企業）

５．回答企業数　　１６４企業（回答率９９．４％）

６．調査対象期間　令和５年１０～１２月期実績及び令和６年１～３月期見通し

７．調査時点　　令和５年１１月１５日（水）

８．回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率（%）
製　造　業	38	23.0%	38	23.2%	100.0%
建　設　業	24	14.5%	24	14.6%	100.0%
小　売　業	51	30.9%	51	31.1%	100.0%
サービス業	52	31.5%	51	31.1%	98.1%
合　　計	165	100.0%	164	100.0%	99.4%

９．DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気(悲観)となります。

DI（数式）　＝　（上昇企業数－低下企業数）÷　回答企業数　×　１００

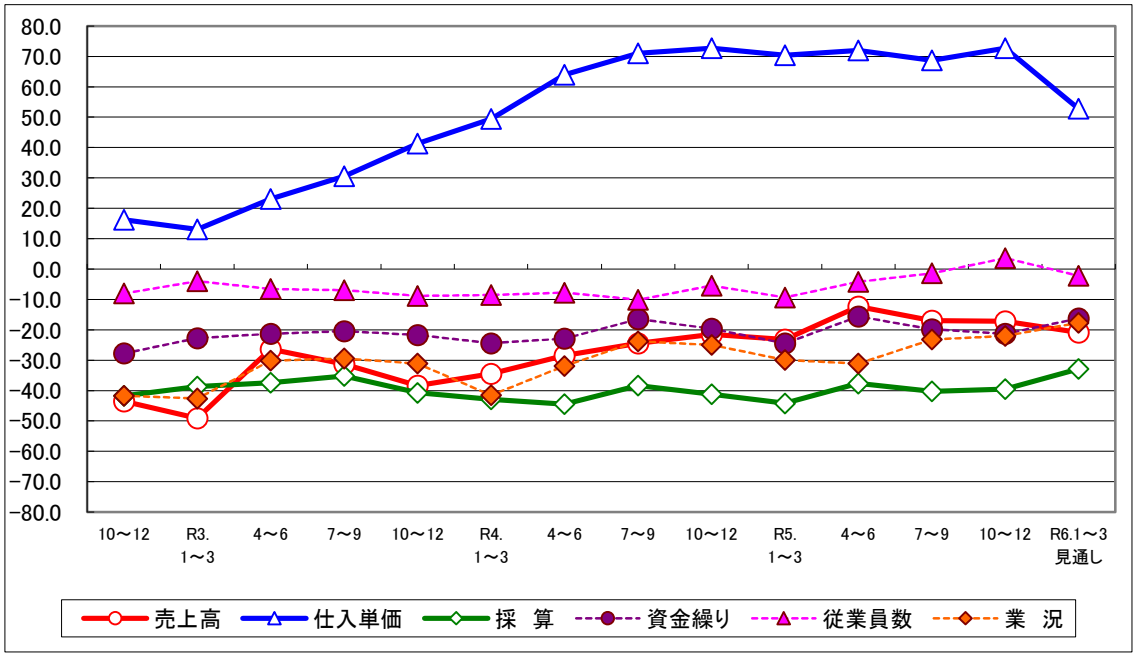
１０．分析執筆者　仁愛大学人間学部　教授、福井県立大学　名誉教授　南保 勝 氏

全体（福井県商工会地域中小企業）の景況

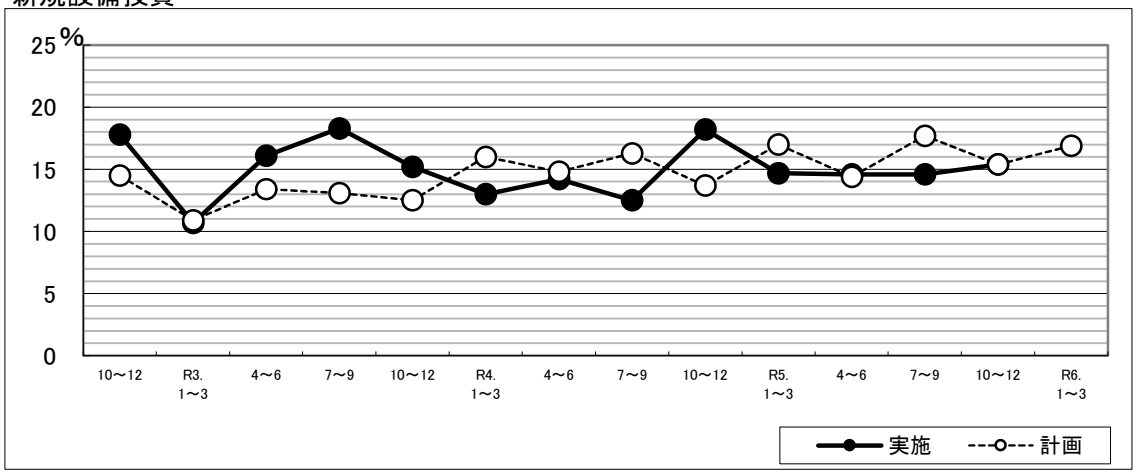
景気動向推移（前年同期比：DI値）

期別/項目別	売上高	仕入単価	採　算	資金繰り	従業員数	業　況
10～12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1～3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4～6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7～9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10～12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1～3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4～6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7～9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10～12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1～3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4～6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7～9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10～12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1～3　見通し	▲ 20.9	52.8	▲ 32.9	▲ 16.3	▲ 2.2	▲ 17.7

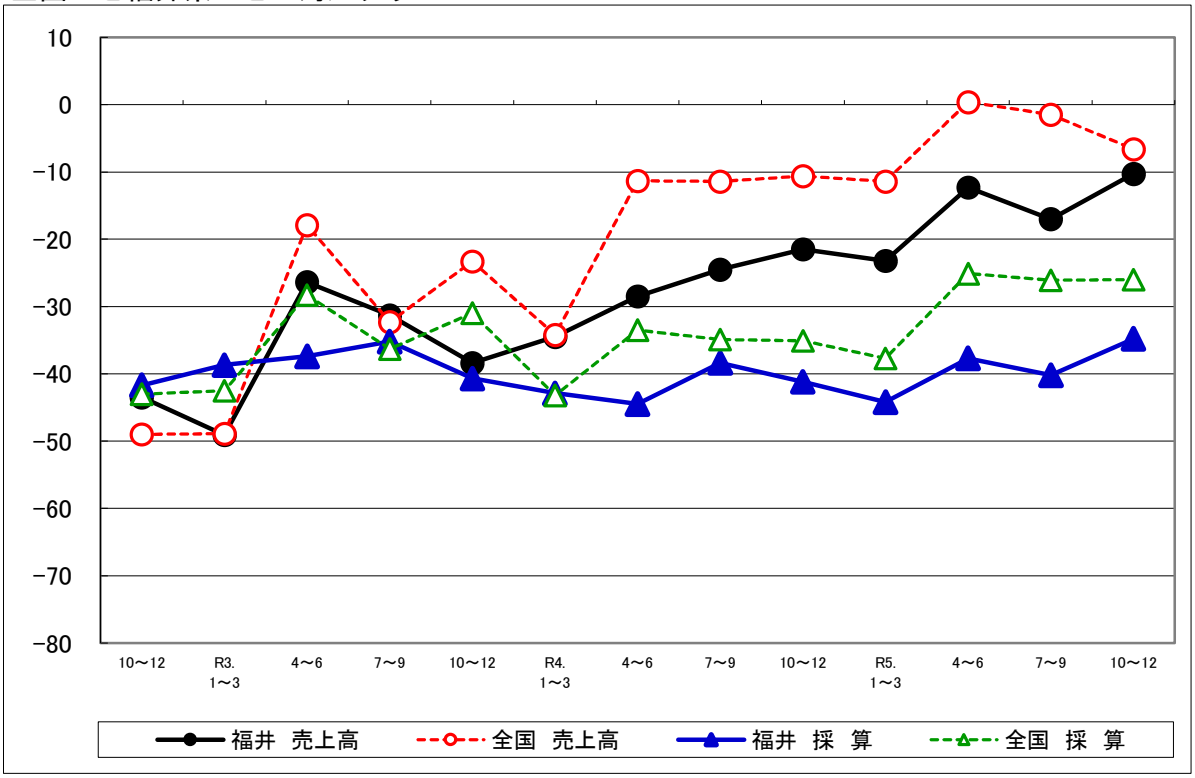
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R5年10－12月期の福井県経済を概観すると、企業部門では、生産面で繊維工業が衣料、非衣料向けともに持ち直しつつあるほか、主力の電子部品・デバイスもスマートフォン向けを中心に下げ止まっている。ただ、全体では操業度合の業種間格差は否めない。家計部門では、個人消費面でドラッグストア販売が飲食料品を中心に好調、百貨店・スーパー販売も緩やかに持ち直しているほか、温泉地や観光地、飲食サービスも持ち直しているなど、全体では持ち直している。ただ、先行きについては、2024年元旦に勃発した能登半島地震の負の影響や物価上昇の長期化が懸念されるほか、世界的な金融引締めや中国経済の下押しによる海外景気の下振れなど、多様な課題の露呈から不透明感が強い。

こうした状況下、今期（R5年10－12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中3項目で改善が進んでいる。項目ごとのDI値をみると、改善した項目が、採算の前期▲40.2→今期▲39.6、従業員数の前期▲1.4→今期3.6、業況の前期▲23.2→今期▲22.0となっている。悪化した項目は、売上高の前期▲17.0→今期▲17.2、仕入単価（逆指数）の前期68.7→今期72.7、資金繰りの前期▲19.8→今期▲21.3であった。先行き（R6年1－3月期）については、4項目で改善傾向を示しており、来期は多少の期待が持てそうである。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国の売上高が悪化する中、福井県は売上高、採算ともに改善傾向となっている。

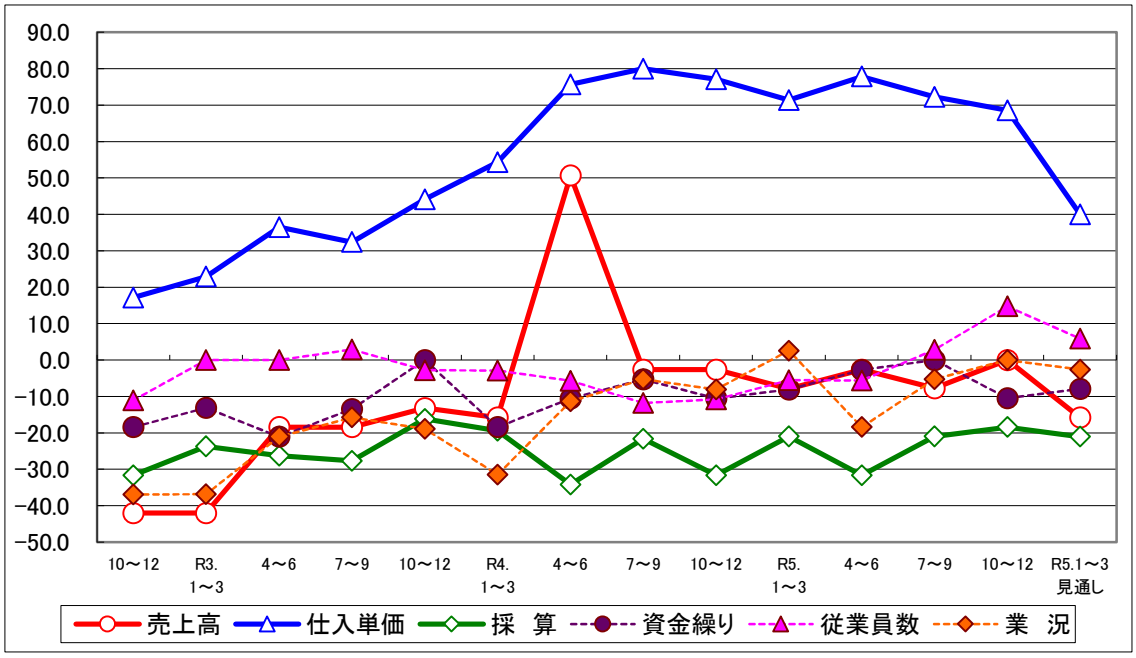
そのほか、今期の新規設備投資については、計画した企業15.4%に対し実施した企業も15.4%と、計画通りの実施状況となった。先行きについても、計画している企業が16.9%あり、ほぼ今期同様の実施状況が予見される。

製造業（福井県商工会地域中小企業）の景況

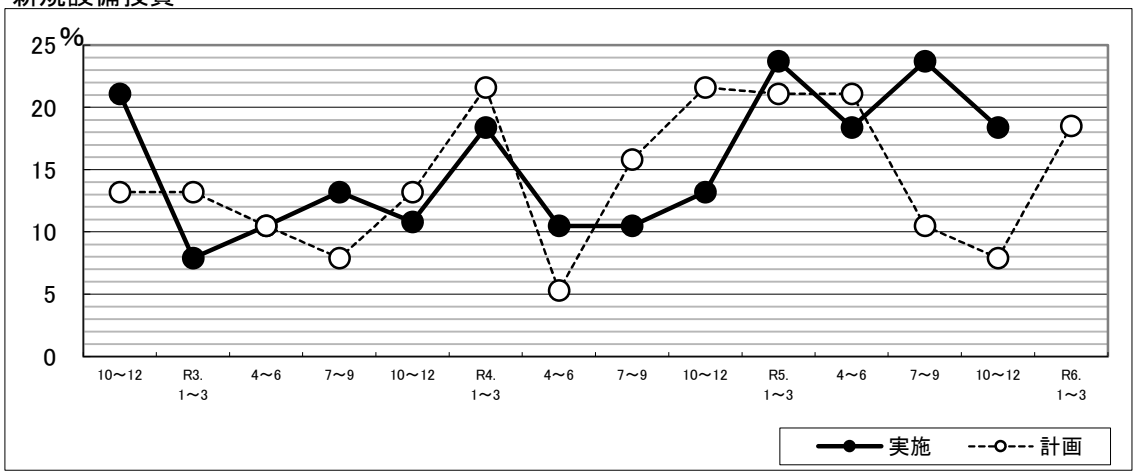
景気動向（前年同期比：DI値）

期別/項目別	売上高	仕入単価	採　算	資金繰り	従業員数	業　況
10～12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1～3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4～6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7～9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10～12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1～3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4～6	50.6	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7～9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10～12	▲ 2.6	77.1	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1～3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4～6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7～9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10～12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R5.1～3　見通し	▲ 15.8	40.0	▲ 21.1	▲ 7.9	5.9	▲ 2.6

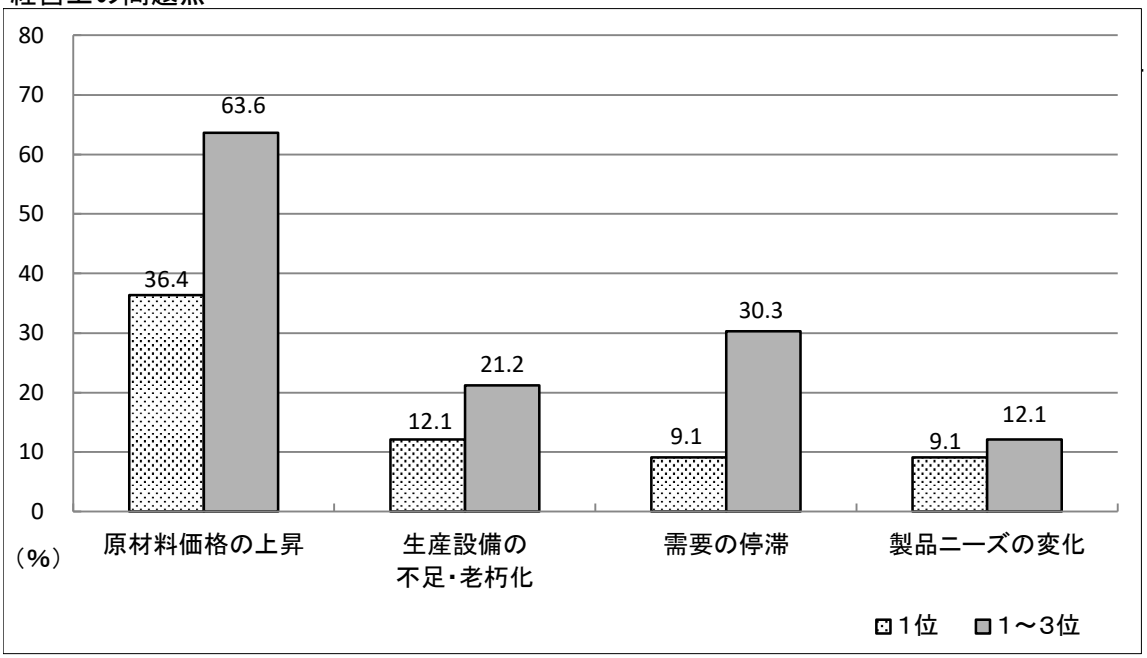
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・ここ数年来のコロナ禍を越えて、製品ニーズの変化がみられる。調理のスピード化、安心安全の食、弊社は、安心安全の食品ということで乾燥麺の製造量が年々増加傾向にあり、専用設備が年間フル回転している。
・昨年は突発的な量産で弊社の業況は好転したが、今年に入ってからは既存の顧客数社からの量産の引き合いがある。業界全体が活発になりつつあると思う。先の見通しは難しいが、平均すると業況は好転していると思う。
・後継者候補は存在するが熟練技術者ではないため、業種柄事業承継が難しい。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、化学工業で合成樹脂等の製品を中心に足踏み状態にあるほか、プラスチック製品も弱含んでいる。しかし、電子部品・デバイスはスマートフォン需要を中心に下げ止まっているほか、繊維工業も衣料、非衣料ともに持ち直しており、眼鏡枠工業なども堅調に推移。こうした状況から、製造業全体では、業種間格差を伴いつつ一進一退の状況にあるとみるべきであろう。

こうしたなか、今期（R5年10－12月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中1項目のみが悪化、残る5項目は改善傾向を示している。各項目の状況をみると、売上高が前期▲7.8→今期0.0へ、仕入単価（逆指数）が前期72.2→今期68.6へ、採算が前期▲21.0→今期▲18.4へ、従業員数が前期2.8→今期14.7へ、業況が前期▲5.3→今期0.0へと改善している。資金繰りは前期0.0→今期▲10.5へと悪化した。先行き（R6年1－3月期）については、2項目で改善予測、その他4項目はいずれも悪化予測が立てられている。

一方、新規設備投資の状況については、計画の7.9%に対し実施が18.4%と、順調な投資状況となったほか、先行き（R6年1－3月期）についても、何らかの投資を予定する企業が18.5%とさらに増加することが予想される。

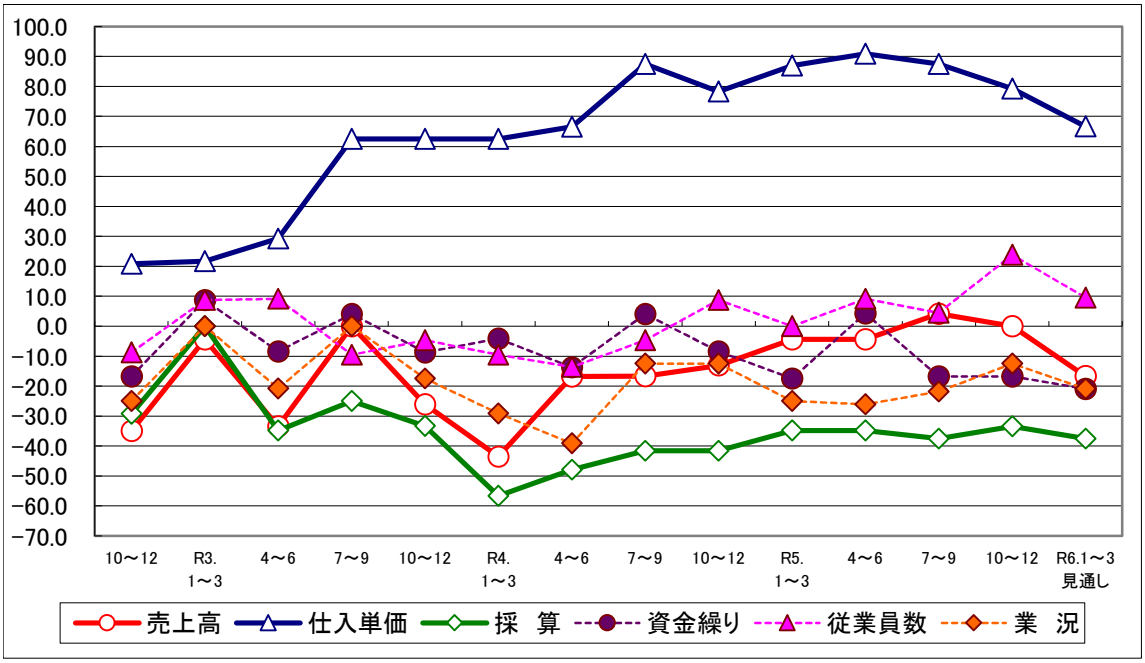
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く36.4%（1位～3位までに挙げた企業63.6%）を占めた。個別の見解としては、「今年に入ってからは既存の顧客数社からの量産の引き合いがある」、「平均すると業況は好転していると思う」など、前向きな見解もみられた。

建設業（福井県商工会地域中小企業）の景況

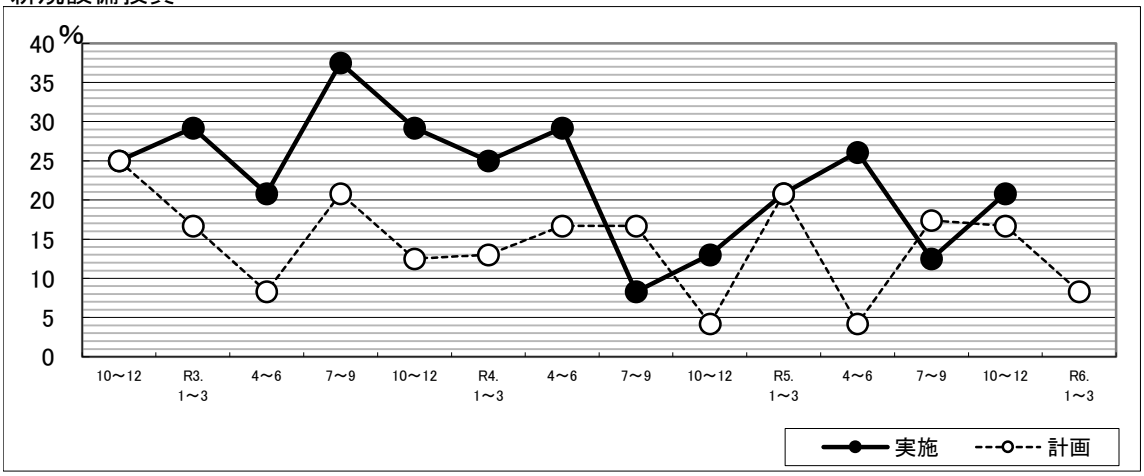
景気動向（前年同期比：DI値）

期別/項目別	売上高	仕入単価	採　算	資金繰り	従業員数	業　況
10～12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1～3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4～6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7～9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10～12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1～3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4～6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7～9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10～12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1～3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4～6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7～9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10～12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1～3　見通し	▲ 16.6	66.7	▲ 37.5	▲ 20.9	9.5	▲ 20.9

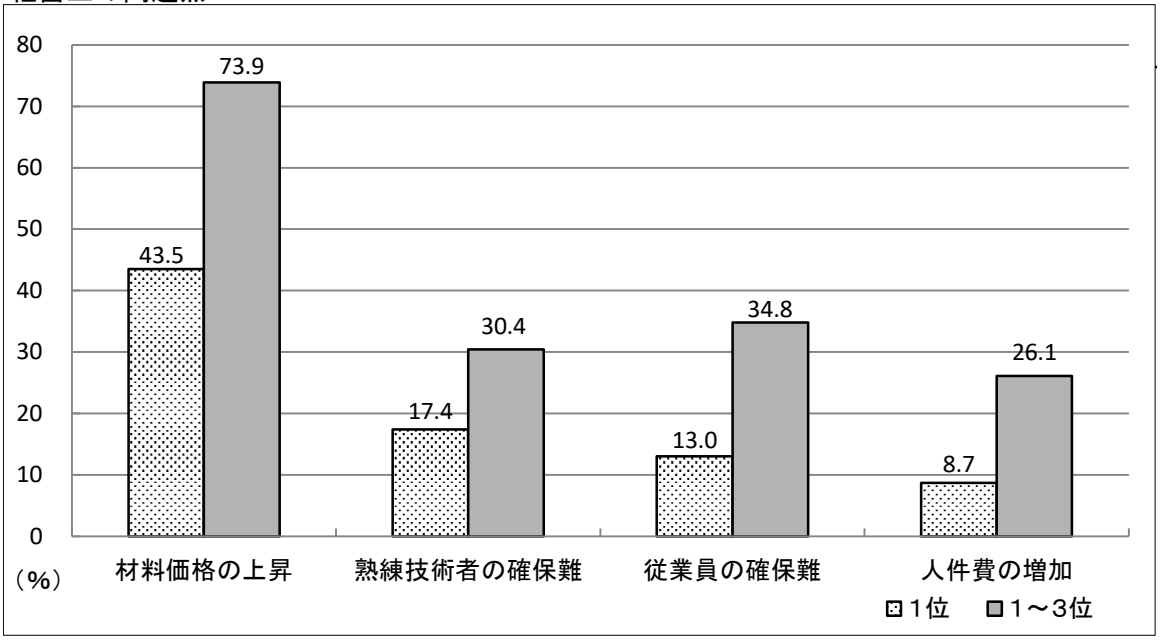
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・世の中のモノが何でも価格上昇し、景気は良くなるのでしょうか？人手不足なのにインボイスや電子帳簿保存法など手間がかかり、事務の方でもコストがかかっています。楽になっていかないので大変です。
・今期は７月の豪雨の影響で利益率が良かったが、これはサプライズ的なもので長く続くわけではないことがマイナス要因である。
・材料価格の上昇が止まらない状況であり、公共工事では受注時と現場での購入時の値段の乖離が大きい状態が続いており、採算悪化の原因となっている。

建設業の景況

福井県内におけるR5年度（R5年4－12月期）の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）は、請負金額が累計で1,090億45百万円の前年同期比12.1%の減少、発注件数は同3,043件の同1.6%の増加となっている。これを主な発注者別でみると、県関連工事が403億72百万円の前年同期比4.4%増となったほか、市町村関連工事も、354億41百万円の同4.9%増となった。しかし、国関連工事、独立行政法人等は軒並み減少に転じている。一方、住宅投資については、R5年4－11月の累計で、前年同期比14.5%減の2,935戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比11.7%減の1,444戸、貸家が同18.6%減の1,185戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の住宅投資の下振れには留意する必要がある。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が4項目、悪化が1項目、横ばいが1項目となり、期待感が先行する形となっている。各項目別のDI値をみると、売上高が前期4.2→今期0.0、仕入単価（逆指数）が前期87.5→今期79.2、採算が前期▲37.5→今期▲33.4、資金繰りが前期▲16.7→今期▲16.7、従業員数が前期4.5→今期23.8、業況が前期▲21.8→今期▲12.5となっている。また、先行き（（R6年1－3月期））については、悪化予想が5項目を数え、景況に対する業界内での見方は一転して雨模様に転じている。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業16.7%に対し実施した企業が20.8%で、そこそこの投資状況を示した。ただ、先行き（R6年1－3月期）ついては、投資計画を持つ企業が8.3%にとどまっており、投資意欲は今期より低下することが予想される。

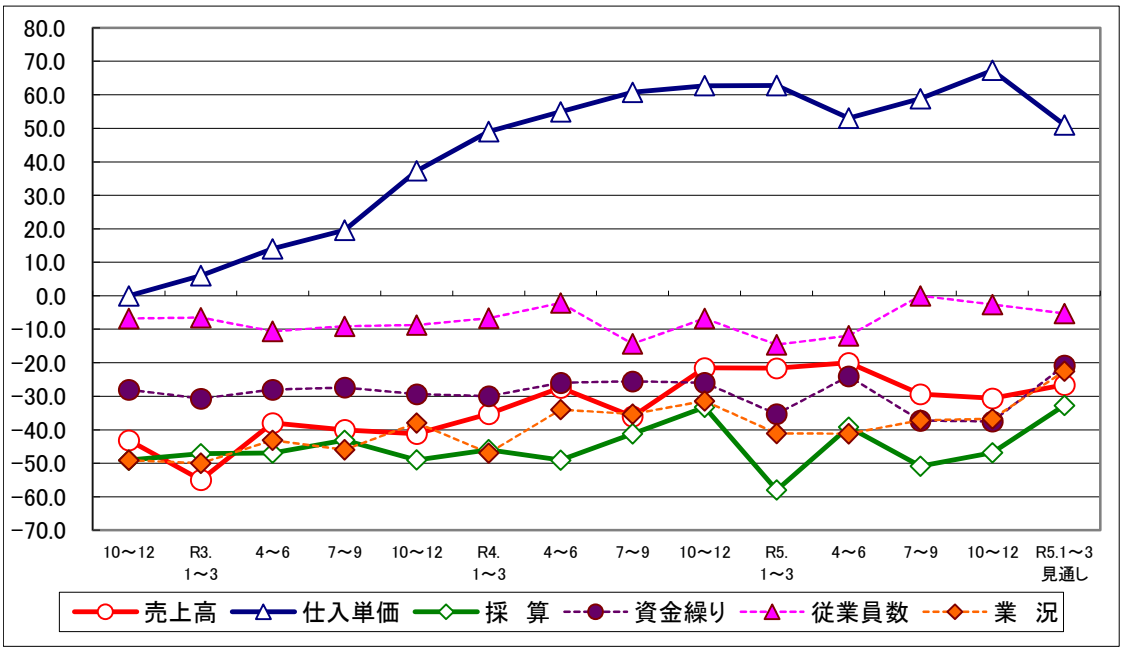
最後に、経営上の問題点については、１位に挙げた企業ウエイトが「材料価格の上昇」で43.5%（1位～3位に挙げた企業73.9%）に達し、他の項目を圧倒している。個別の見解としては、インボイス制度や電子帳簿保存法に対する不安の声も聞かれた。

小売業（福井県商工会地域中小企業）の景況

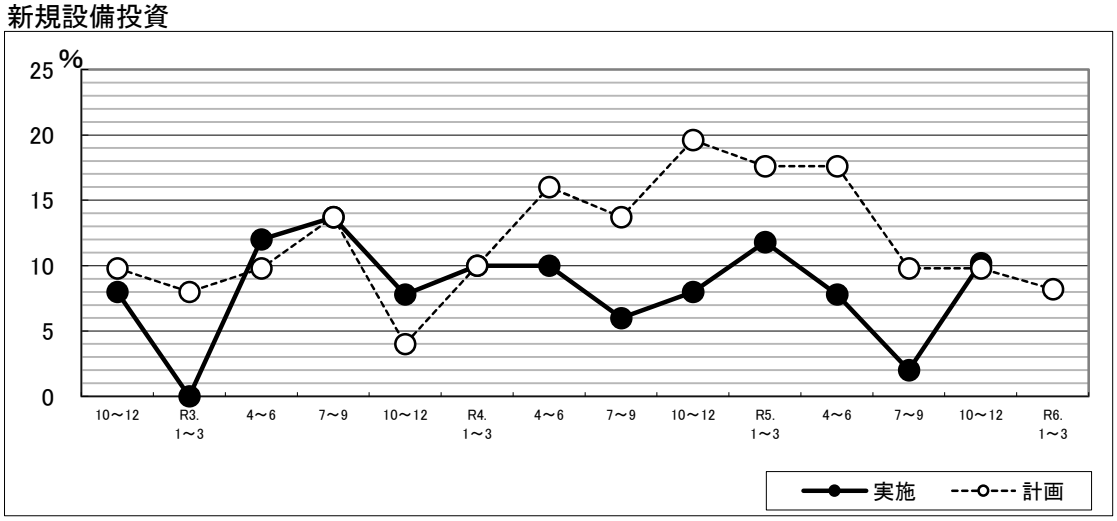
景気動向（前年同期比：DI値）

期別/項目別	売上高	仕入単価	採　算	資金繰り	従業員数	業　況
10～12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1～3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4～6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7～9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10～12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1～3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4～6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7～9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10～12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1～3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4～6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7～9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10～12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R5.1～3　見通し	▲ 26.6	51.0	▲ 32.7	▲ 20.8	▲ 5.3	▲ 22.5

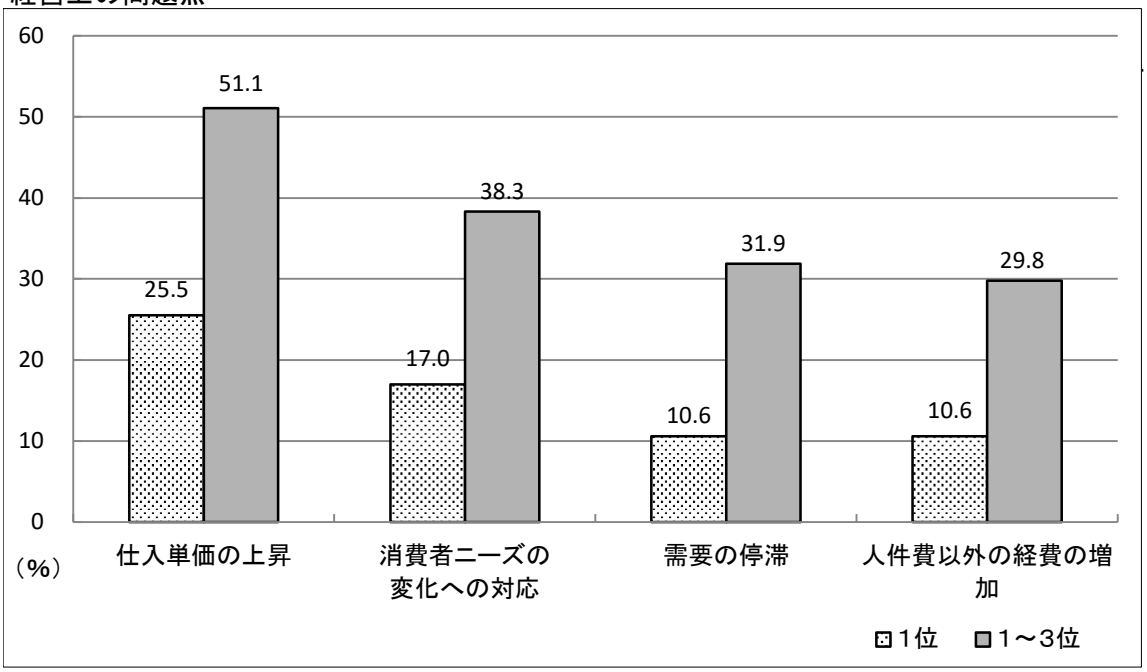
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・売上げは増加しているが、経費も増加しており、収支はさほど増加していない。現状を維持がやっとである。
・コロナは落ち着いた感はあるが、需要は少し停滞気味です。また、今後理解しにくい資格等の案内が増え対応に難儀している。以前の販売とは少し形態を変えていかなくてはと感じる。
・インボイスに対応してもらえないかという要請が多い。（現状は対応していない。）

小売業の景況

最近の小売商況（R5年10－12月期）を概観すると、ドラックストア販売が飲食料品の伸びに加え新規出店効果も相まって拡大しているほか、百貨店・スーパー、ホームセンター、家電量販店、コンビニエンスストアなどでも持ち直しており、県内小売商況は概ね堅調に推移している。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR5年11月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、堅調な飲食料品の伸びに支えられ、前年同月比1.6%増（全国4.6%増）の71億71百万円となっている。

しかし、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち改善傾向を示す項目が2項目にとどまり、予断を許さない状況であることがわかる。これを項目別にみると、売上高が前期▲29.4→今期▲30.6、仕入単価（逆指数）が前期58.8→今期67.3、採算が前期▲50.9→今期▲46.9、資金繰りが前期▲37.3→今期▲37.5、従業員数が前期0.0→今期▲2.6、業況が前期▲37.2→今期▲36.7となっている。ただ、先行き（R6年1－3月期）については、従業員数を除く5項目で改善予想が立てられている。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の9.8%に対し実施が10.2%と、実施が計画を上回ったものの、先行き（R6年1－3月期）ついては、何らかの投資を計画する企業ウエイトが8.2%にとどまり、投資マインドの回復は引き続き厳しい。

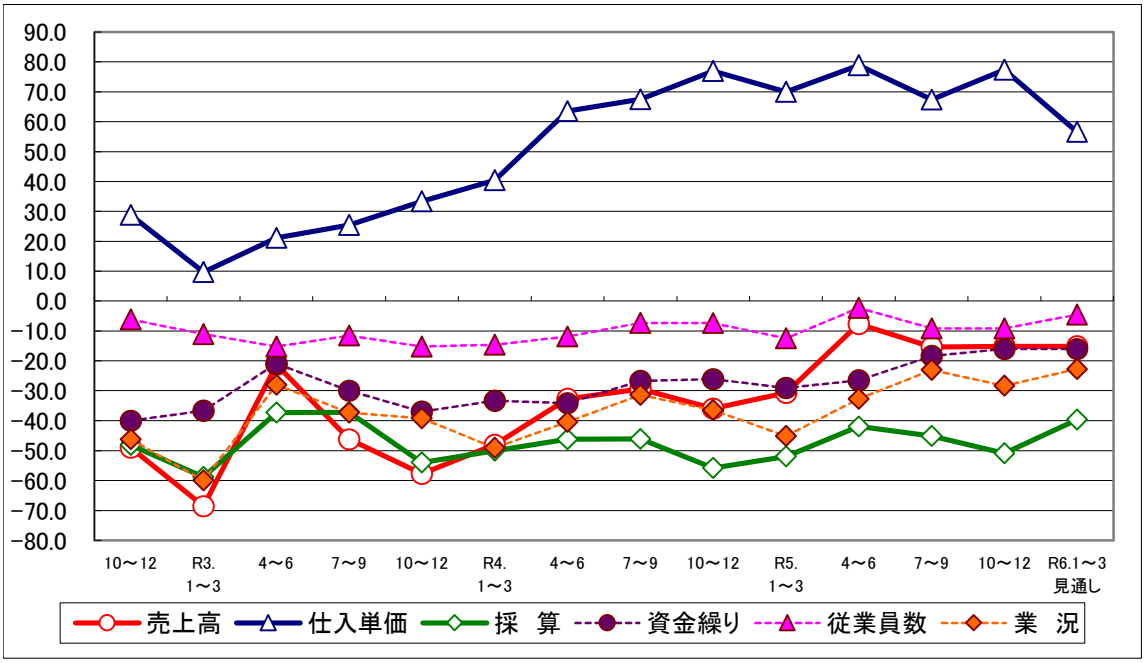
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業25.5%、1位～3位までに挙げた企業51.1%を占めている。個別の見解としては、「店売りが少し伸びた」など明るい声も散見されたが、全体としては後継者難、原材料の値上がりなど悲観的な見方が目立っているほか、インボイス制度に対する不安感を指摘する声も聞かれた。

サービス業（福井県商工会地域中小企業）の景況

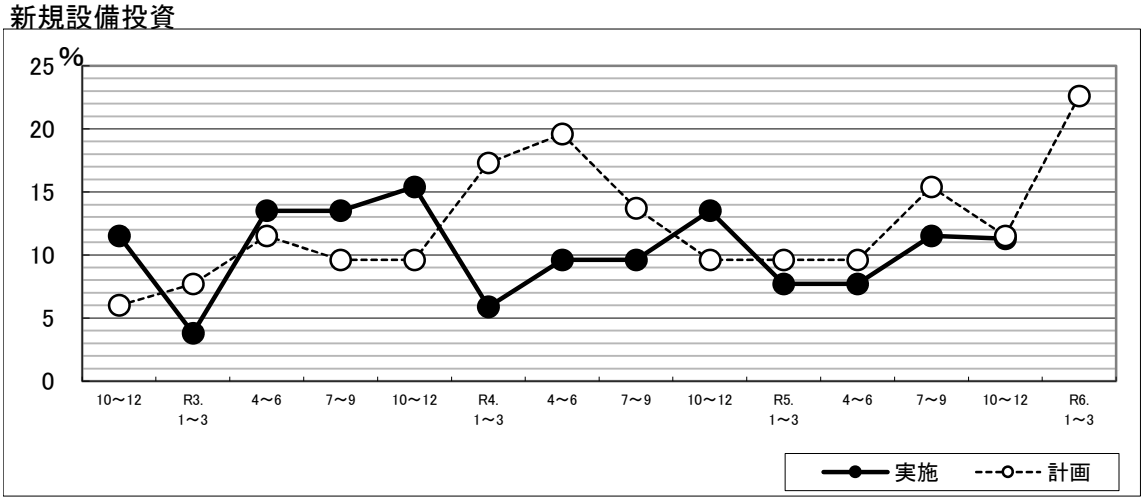
景気動向（前年同期比：DI値）

期別/項目別	売上高	仕入単価	採　算	資金繰り	従業員数	業　況
10～12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1～3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4～6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7～9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10～12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1～3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4～6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7～9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10～12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1～3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4～6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7～9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10～12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1～3　見通し	▲ 15.1	56.6	▲ 39.6	▲ 16.0	▲ 4.5	▲ 22.7

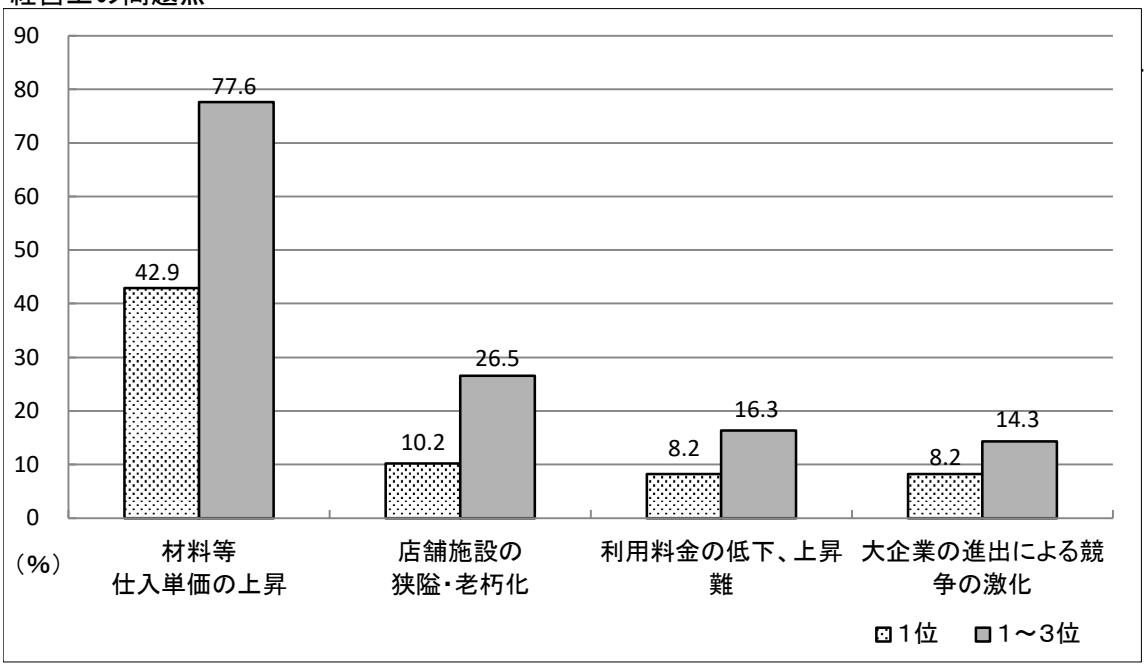
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・コロナ感染の状況も少しおさまり、人々の動きが出てきたように思います。旅行や人と出会う機会が増えればいいと思います。
・コロナ禍明けの需要戻りに期待していたが、思ったほどの客足回復には至っていない。一方、原材料（食品）の値上がりにより仕入単価が上昇している。提供価格は据え置いているが維持は難しい。
・カニシーズンも始まり、新幹線開通を迎え関東、上信越へのＣＭも多くなり、順調に予約が入ってきている。忘年会、新年会はコロナを境に減少している。特に関西方面のグループ、団体が減っている。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」（R5年10月、季節調整値）をみると、指数値100.4、前月比0.8%のマイナスとなった。ちなみに、今年度のサービス産業活動を振り返ると、2023年4月及び5月において、企業間の取引活動が活発化したことなどから上昇。しかし、6月は、それまでの上昇基調の反動などから低下。その後、7月は、「運輸業，郵便業」等が、8月は、「金融業，保険業」等が堅調であったことなどから上昇したが、9月は、前月までの上昇の反動などから「生活娯楽関連サービス」を中心に多くの業種が低下、全体としても低下となった。こうした中、10月は、「電気・ガス・熱供給・水道業」を始めとして多くの業種が低下したことなどから、全体として2か月連続の低下となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中2項目で改善、3項目で悪化、1項目で横ばいとなっている。ちなみに、項目別の指数は、売上高が前期▲15.3→今期▲15.1、仕入単価（逆指数）が前期77.3→今期77.3、採算が前期▲45.1→今期▲50.9、資金繰りが前期▲18.4→今期▲16.0、従業員数が前期▲9.1→今期▲9.1、業況が前期▲23.1→今期▲28.3となっている。また、先行き（R6年1－3月期）については、4項目で改善予測が立てられており、幾分の回復が期待される。

一方、新規設備投資については、計画11.5%に対し実施が11.3%となり、計画どおりの実施状況となった。また、先行き（R6年1－3月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが22.6%と倍増しており、投資マインドの底上げが期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「材料等、仕入単価の上昇」（1位に挙げた企業ウエイト42.9%、1位～3位までに挙げた企業77.6%）への指摘が最も多い。個別の見解としては、「新年会が減少している」、「関西方面のグループ、団体が減っている」、「仕入単価が上昇している」など、厳しい経営環境を訴える声が目立っている。

全国・福井景気動向　令和５年１０月～１２月（対前年同期比：DI値）

ＤＩ値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 ／ 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 6.6	72.3	▲ 26.0	▲ 13.9	▲ 3.6	▲ 16.6
	製造業						
	DI値	▲ 7.4	70.4	▲ 21.0	▲ 12.3	▲ 2.9	▲ 13.3
	建設業						
	DI値	▲ 11.8	73.9	▲ 25.3	▲ 9.4	▲ 5.0	▲ 12.7
	小売業						
	DI値	▲ 17.6	71.0	▲ 33.8	▲ 22.0	▲ 2.8	▲ 29.0
	サービス業						
	DI値	5.1	73.9	▲ 23.2	▲ 10.6	▲ 3.5	▲ 11.4
福井	全体						
	DI値	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
	製造業						
	DI値	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
	建設業						
	DI値	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
	小売業						
	DI値	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
	サービス業						
	DI値	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。